

資料 1

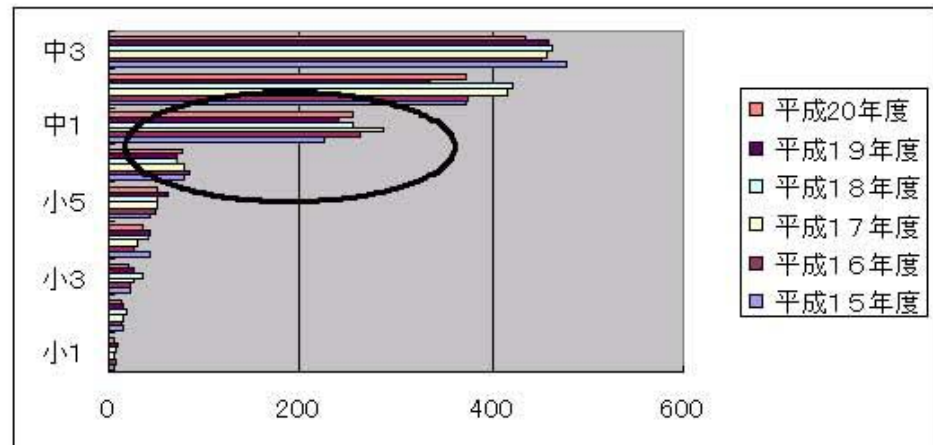
不登校児童生徒について（本市結果）

中1ギャップ（※）
が起きる具体的な背景

※小学校と中学校との間にある学習や生活の違いにうまく適応できず、不登校やいじめいじめ等の学校における不適応の状態が増加する現象。

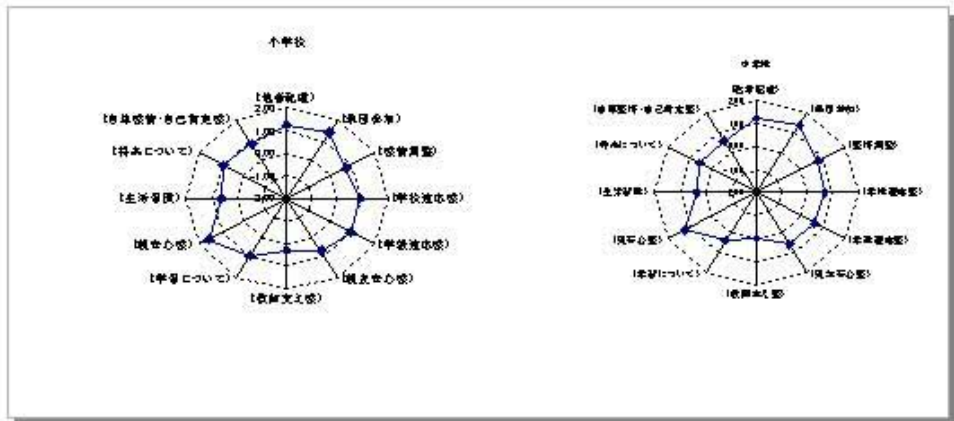
- ・小中の校種ごとの学校文化の違い（教師の学力観や評価観、生徒指導観）に対するとまどい
- ・学級担任制から教科担任制への変化や指導方法の変化へのとまどい（授業のスピードの速さ、分厚い教科書）
- ・評価の仕方の変化（単元別評価の積み重ね→複数単元の評価）へのとまどい
- ・複数の小学校から1つの中学校へ進学することに伴うとまどい
- ・思春期における新しい人間関係のつまずき
- ・部活動や上級生との人間関係のつまずき

① 学年別不登校児童生徒数推移



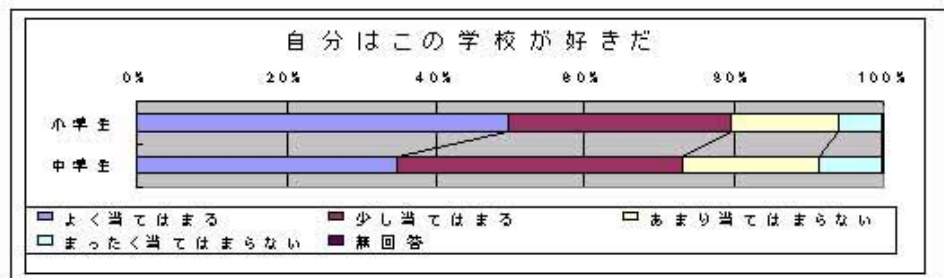
- ・全国的に小中学校における不登校児童生徒は、増加の傾向をたどっています。この背景には、学校生活をはじめとする家庭生活や本人の問題などの様々な要因が考えられます。
- ・平成20年度の文部科学省調査では、本市における中学校での不登校児童生徒の数は、学年が上がるにつれて増加しており、特に、小学校6年生（平成19年度：77名）から中学校1年生（平成20年度：256名）にかけては、3.36倍と著しく（全国3.0倍）増加しています。

②-1 小学校、中学校別児童生徒の意識調査の比較

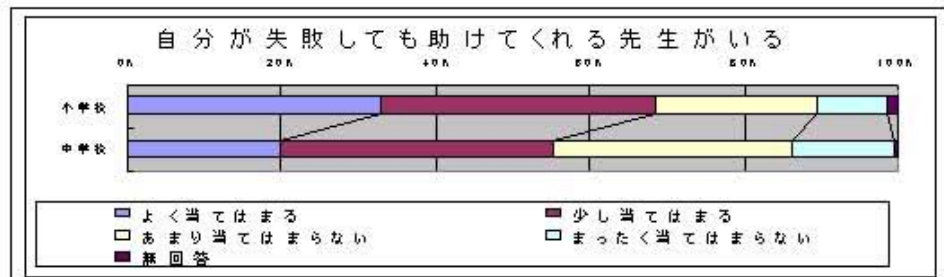


- 本市では、平成20年度に小学校5・6年生と中学校1・2年生を対象に12項目の意識調査を行いました。その結果では、小中学校の児童生徒ともほぼ同じ軌跡をたどっていましたが、中学校になると、より数値が低くなっている傾向が見られました。特に、「学習について」「教師支え観」「生活習慣」「将来について」「自尊感情・自己肯定感」は、中学校になると低下の傾向が顕著になってきます。

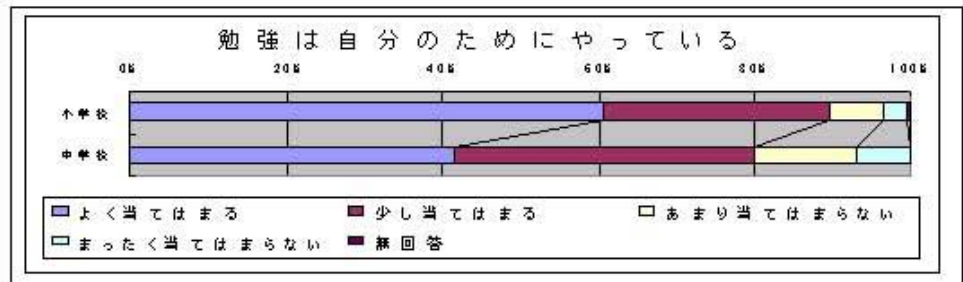
②-2 学校生活についての意識調査



- 学校適応感、学級適応感は、いずれも同じような傾向にあり、学校や学級が好きかどうかや行事などの参加に対する意識は中学生になると低くなっています。

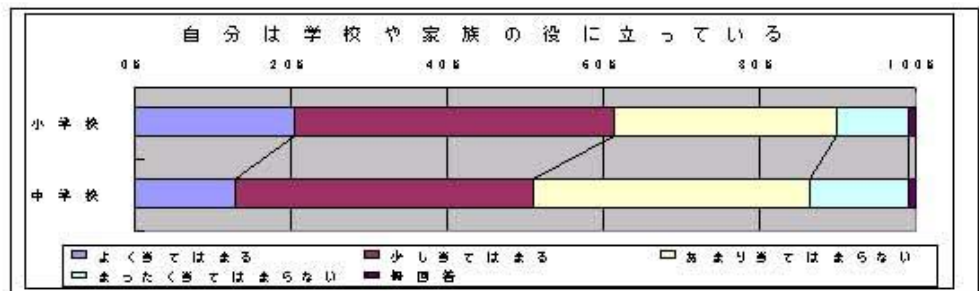


- 教師支え感に関しては、小学生に比べすべての項目について中学生は低くなっています。中学生で「自分が失敗しても助けてくれる先生がいる」に、「あまり当てはまらない」「まったく当てはまらない」と答えた生徒を合計すると44.1%となります。



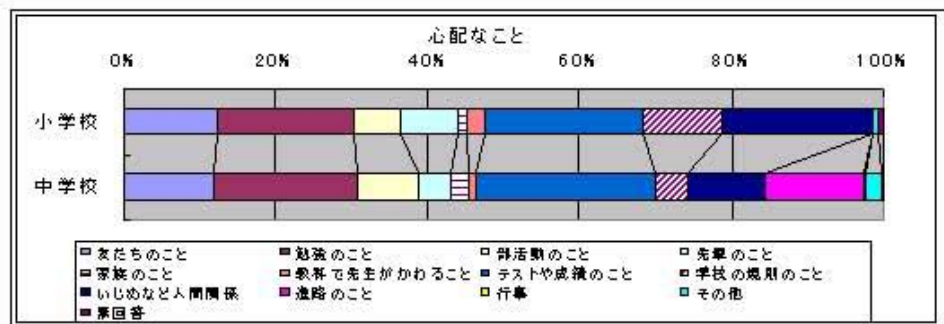
- ・学習に関しては、ここに掲げた「勉強は自分のためにやっている」以外でも、「勉強は楽しい」「勉強はよくわかる」など多くの項目で、中学生は低くなっています。

②-3 自尊感情についての意識調査



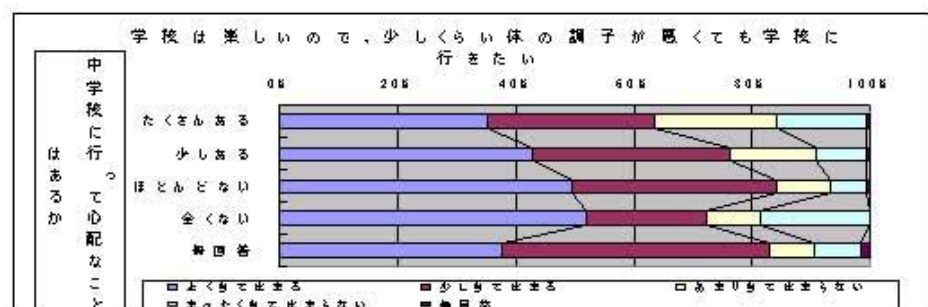
- ・小中学生とも全体的に自尊感情は低い状態にあります。特に「自分は学校や家族の役に立っている」と答えた小学生は6割，中学生は5割程度です。

②-4 中学校に入ってから心配なこと・今心配なことの意識調査



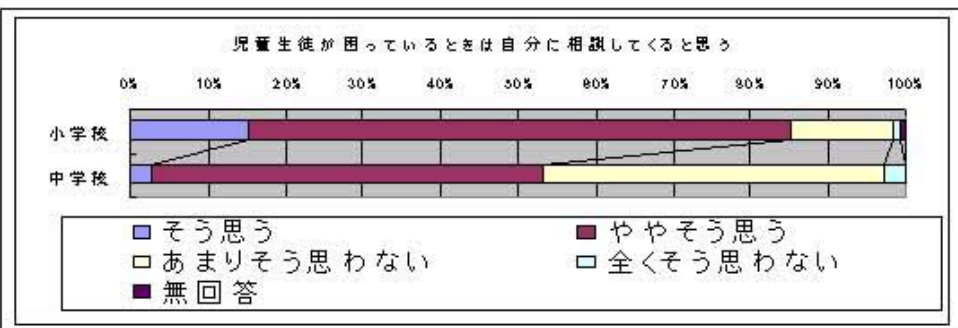
- ・中学校に入ってから心配なことについては、小学生は「テストや成績のこと」「いじめなどの人間関係」「勉強のこと」「友だちのこと」「学校の規則のこと」が上位を占めますが、中学生になると、「テストや成績のこと」「勉強のこと」の割合が高くなるとともに、「進路のこと」が大きく増えてきます。

②-5 中学校に行ったら心配なことのクロス集計



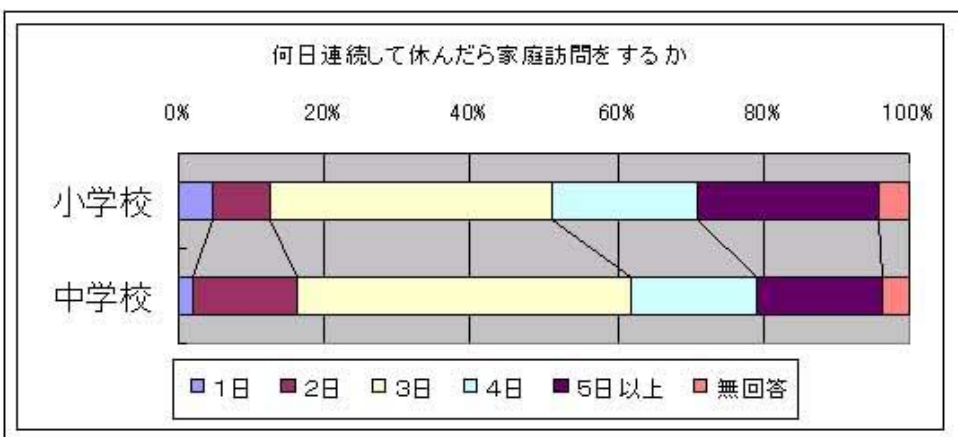
③-1 教職員の意識調査（困った時の相談相手）

- ・「中学校に行っても心配なことがない」と答える小学生ほど、「学校は楽しいので少しくらい体調が悪くても学校に行きたい」という項目について、「よく当てはまる」「少し当てはまる」と答える割合が高くなっています。



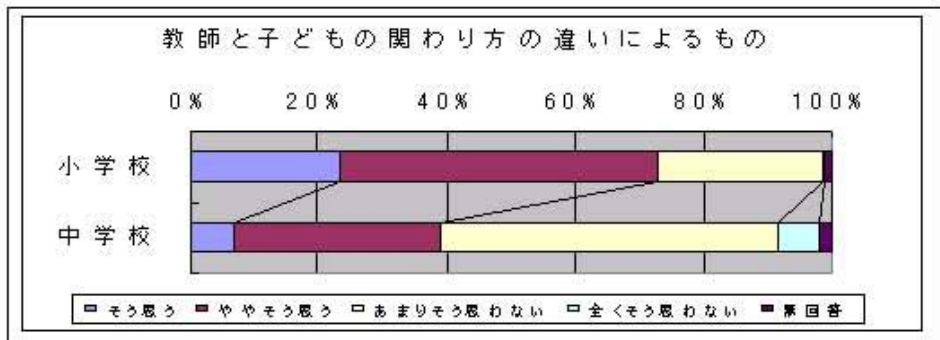
- ・ほとんどの教職員は子どもや家庭との関わりを心がけていますが、「子どもや家庭が困っているとき、自分に相談してくる」と思っている教職員は、小学生では、「そう思う」「ややそう思う」の合計が8割を超えているのに対して、中学校では「そう思う」「ややそう思う」の合計が5割程度にとどまっています。

③-2 教職員の意識調査（連続して欠席した子どもへの家庭訪問）



- ・「子どもが連続して休んだとき、気になる日数」は、「1，2日」が小中全体で56.4%，「3日まで」が同じく96.4%です。
- ・「家庭訪問を開始する日数」は、「1，2日」が小学校12.5%，中学校16.2%，「3日まで」が小学校51%，中学校61.9%となっており，中学校の教職員の方が連続して休んだときの対応が早い傾向が伺えます。

③-3 教職員の意識調査（小学校と中学校の子どもの関わり方の違い）



- ・中1ギャップの原因が「教師と子どもの関わり方の違いによる」と考える教職員は、小学校で70%程度（「そう思う」「ややそう思う」の合計）ですが、中学校では40%程度（「そう思う」「ややそう思う」の合計）に減ってきます。

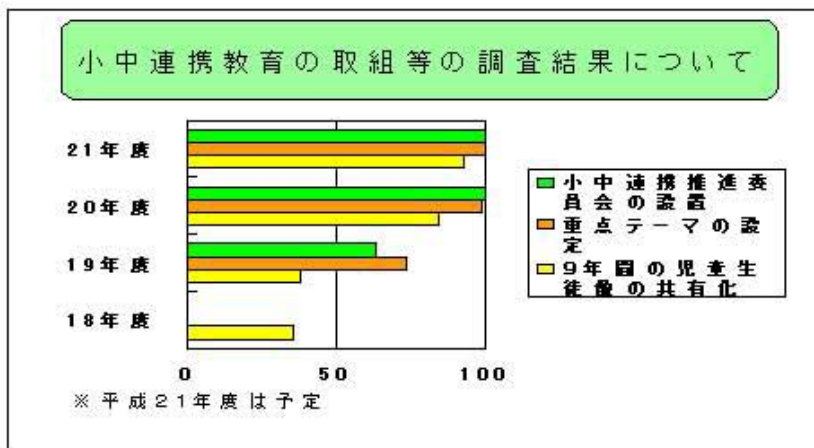
資料2

第1次小中連携教育について

① 平成20年度の重点目標について

1. 平成20年度の重点目標
 - (1) 9年間を見通して目指す児童生徒像の共有化
 - (2) 中学校ブロックでの重点テーマの設定
 - (3) 小中連携教育推進委員会の設置
2. 重点化した連携内容
3. 連携方法
 - (1) 教職員の連携
 - (2) 児童生徒の交流
 - (3) 地域・保護者との連携

② 小中連携教育の取組等について



- (1) 9年間を見通して目指す児童生徒の共有化
19年度38.2% → 20年度84.0%
- (2) 中学校ブロックでの重点テーマの設定
19年度73.5% → 20年度98.5%
- (3) 小中連携教育推進委員会の設置
19年度60.0% → 20年度100%

③ 各中学校ブロックでの具体的な取組について

各中学校ブロックごとの重点テーマと特徴				
	学力向上	生徒指導	心の教育	その他
重点テーマ	- 習熟学習の定着 9年間の学習カリキュラム - 授業改善の工夫	- 不登校解消の取組 - 学習規律 - 生活規律の徹底	- 道徳教育 - 人権教育	
特徴	- 学力パワーアップ推進事業との連携 - 学習カリキュラム - 合同研修会 - 授業文法 - 習熟学習の仕方	- 統御運動 - 清掃・給食指導 - 個人カルテの作成 - 学習態度	- 授業文法、授業研究 9年間の道徳教育カリキュラム 9年間の人権教育カリキュラム	- 道徳教育 - 総合的な学習 - 地域連携 - 探検小中高連携 - 読書活動 - 特別支援教育
小中教職員交流 ・ 児童生徒の交流				
	26ブロック	39ブロック	13ブロック	※重複回答あり。

〔各中学校ブロックでの具体的な取組状況〕

各中学校ブロックの課題や状況に応じて、「学力向上」「生徒指導」「心の教育」など多岐にわたった連携が推進されています。

生徒指導：

39の中学校ブロックが推進。不登校解消のための個人カルテの作成や、生活規律の系統的なカリキュラムに沿った取組を実践。

学力向上：

26の中学校ブロックが推進。9年間を見通した学習規律の指導や「授業改善の手引き」の活用についての合同研修会などを推進。

さらに、「道徳教育9年間の系統表」の作成や、保幼および特別支援学校、高等学校との連携の取組も推進。

内 容		H 17 (実績)	H 18 (実績)	H 19 (実績)	H 20 (実績)
重点課題	9年間を通してめざす児童生徒像	20ブロック 29.4%	24ブロック 35.3%	26ブロック 38.2%	58ブロック 84.0%
	重点テーマの設定			50 73.5%	68 98.5%
	小中連携教育推進計画の立案			43 63.2%	69 100%
	合同研修会・授業公開	63 92.6%	67 98.5%	68 100%	69 100%
教職員交流	出前授業、小中教諭によるTT	27 39.7%	25 36.8%	36 52.9%	41 59.4%
	家庭学習の指導の連携	12 17.6%	19 27.9%	22 32.4%	30 50.7%
	生徒指導上の連携	68 100%	68 100%	68 100%	69 100%
	体験入学・部活動体験	55 80.9%	55 80.9%	58 85.3%	65 94.2%
児童生徒交流	学校行事での連携（合同開催・見学等）	27 39.7%	29 42.6%	40 58.8%	40 57.9%
	児童会・生徒会の連携（6年生への入学説明会等）	10 14.7%	46 67.6%	58 85.3%	59 85.5%

④ タイプ別中学校ブロックにおける小中連携教育の推進について

統一化	①Aタイプ…施設一体型・1小1中（距離近隣） 中学校ブロックの教育目標を統一化し，教育指導計画の一貫を図り日常的に小中連携教育を推進
	②Bタイプ…1小1中（距離遠隔） 中学校ブロックの教育目標を統一化し，教育指導計画の連携を図り小中連携教育を推進
共通化	③Cタイプ…複数小1中（2小1中） 中学校ブロックの教育目標を共通化し，教育指導計画の連携を推進
重点化	④Dタイプ…複数小1中（3小1中） 中学校ブロックの教育目標を重点化し，教育指導計画の連携を推進
	⑤Eタイプ…複数小1中（4小1中・行政区別） 中学校ブロックの教育目標を重点化し，教育指導計画の連携を推進

資料3

第2次小中連携教育について

「前期・接続期・後期」の発達段階

小学校6年間・中学校3年間の学校制度をもとに，義務教育9年間を見通して，前期4年，接続期3年，後期2年の発達段階に応じた連続性のある教育活動に取り組みます。

■ 前期：4年間（小学校1年生～4年生）

〔学習や生活の基盤づくり〕

学習や生活の基盤づくりを図ることを重視し，繰り返し指導や補充指導等を通して，学習規律や基礎的・基本的な知識・技能，基本的な生活習慣の確実な定着を目指します。

■ 接続期：3年間（小学校5年生～中学校1年生）

〔小中の滑らかな接続〕

これまでの学習や生活で身に付けたことを活用することを重視し，自ら学ぶ意欲を高め，粘り強く学習する態度を育てることを目指します。

小中人事交流や小学校高学年での一部教科担任制を行い，中学校の学習への滑らかな接続を図り，中1ジャンプできる取組を行います。

■ 後期：2年間（中学校2年生～3年生）

〔個性や能力の伸長〕

能力や個性を伸ばす課題別・習熟度別学習やキャリア教育等を重視することにより，進路についての目標を持ち，自ら進路を切り拓こうとする態度の育成を目指します。

資料4 福岡市小中連携教育推進組織について

○小中連携教育推進事業検討委員会

(目的) 本市の小中連携教育の方針などについて検討を行う。

(外部委員)

- ・学識経験者 ・市PTA協議会代表 ・小中学校校長会代表
- ・小中人事交流校長 ・施設一体型小中連携教育校校長

(内部委員)

- ・指導部長・学校支援課長・学校指導課長(教育課程等担当, 生徒指導等担当)
- ・教職員課長・研究支援課長・教育相談課長

(事務局)

- ・学校指導係長および主任指導主事・研究支援課主任指導主事



○小中連携教育拠点ブロック連絡協議会

(目的) 各区連絡会の円滑な推進を図るために拠点ブロックの役割や運営について検討を行う。

(対象) 拠点ブロック校長(場合によっては小中連携教育担当者)



○各区連絡会

(目的) 区内において, 各中学ブロックの小中連携教育推進状況について情報交換を行う。

(対象) ・拠点ブロック校長 ・各学校の小中連携教育担当者

資料5 福岡市小中連携教育の拠点ブロック指定計画について(数字はブロック数)

・施設一体型小中連携校2校(照葉小中学校、玄界小中学校)は除く

年度	博多区	東区	中央区	城南区	西区	早良区	南区	計
21年度	4	5	2	3	4	3	3	24
22年度	3	5	2	2	4	4	3	23
23年度	3	5	1	1	4	3	3	20

資料6 小中人事交流について

【教員校種間人事交流】(平成21年度)

〔中学校→小学校〕

校長	教頭	教諭
6名	10名	11名
配属校	堅粕小 千代小 舞鶴小 弥永小 那珂小 松島小 壱岐小 内浜小 西新小 香椎浜小 高取小 姪浜小 笹丘小 野多目小 田村小 西戸崎小 名島小 弥永西小 美和台小 小笹小	
教諭の 担当 業務	〔専科〕・理科・算数・体育 ・英語活動 〔少人数指導〕 〔学級担任〕	

〔小学校→中学校〕

校長	教頭	教諭
3名	3名	5名
配属校	香椎第1中 内浜中 照葉中 和白中 友泉中 野間中 原北中 香椎第3中 姪浜中	
教諭の 担当 業務	〔教科〕・数学・社会・理科 ・保健体育 〔学級担任〕〔部活動顧問〕	

※なお, 市立高等学校(4校)と中学校との人事交流, 特別支援学校と小中学校との人事交流, 市立幼稚園と小学校との人事交流も行われています。

資料7 小中連携教育と関連をもつ施策（一覧）

「新しいふくおかの教育計画」では、小中連携教育を教育の方法の一つとして位置づけています。この小中連携教育を通して、児童生徒の学力向上、ことばの教育の推進、心の教育の充実、学校における適応指導の充実や体力向上、キャリア教育の充実を図ります。そこで、小中連携教育と関連をもつ施策を以下に示します。

学習から始まる連携教育

9年間を見通した学習指導

- 子どもたちの「学力の向上」を目指して、9年間を見通した学力向上推進プランを作成することで、基礎・基本の徹底を図るとともに、学習規律を発達段階に応じて育成します。
- 小中学校間の評価観の共有を図り、学力向上の取組状況に関する調査や保護者に対するアンケート調査等を通して、効果的かつ重点的な評価の取組のあり方を検証します。
- 学力向上を目指して小学校4年生から一部教科担任制を導入します。
- きめ細かな指導を行うために、少人数指導により、習熟度や課題に応じて少人数化した学習集団や複数の教員による指導などを行います。

〔主な施策と取組〕

- ・学力パワーアップ総合推進事業
- ・小学校高学年における一部教科担任制の推進
- ・少人数学級の実施
- ・小中学校間の学力向上に向けた評価マネジメント

生活から始まる連携教育

心の教育の充実

- 前期・接続期・後期の発達段階における心理的特徴を踏まえ、自分を大切にするとともに他の人を大切にする心や規範意識、向上心などを育てる教育を推進します。また、心に響く豊かな体験を生かした資料や教材の開発を小中合同で行います。
- 9年間を見通した図書館教育や、メディアリテラシーの育成に努めます。

〔主な施策と取組〕

- ・中学校ブロックでの学校司書配置事業
- ・メディアリテラシーの育成

学校における適応指導の充実（いじめ・不登校対策）

- 中学校1年で急激に増える不登校生徒に対し、小中学校の連続性のある教育活動を推進するとともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや不登校対応教員の配置、適応指導教室の運営などの取組を行います。
- 小中連携による生徒指導の改善や子育て支援を含めた家庭、関係機関との一層の連携の充実を図ります。不登校の児童生徒一人一人の要因に即した適切な支援を継続的に行うため、個人サポートブックの活用促進や、小・中学校の情報交換会を開催します。

〔主な施策と取組〕

- ・中学校1年生における少人数学級の実施
- ・不登校対応教員の配置
- ・学級集団アセスメントの実施
- ・不登校生徒の復帰を目指す「不登校ひきこもり対策支援事業」

体力の向上

- 体力向上推進計画にもとづき、体育の授業や体験活動の充実を図ったり、子どもが進んで休み時間に外遊びを行ったりするなど、学校の教育活動全体を通じて体力向上を図ります。
- 「新体力テスト」の実施促進を図るとともに、集計ソフトを活用して一人一人の体力の実態と課題を把握しその結果を保護者に伝えるなど、子どもの実態と課題に応じた体力向上の取組を行います。さらに、小中の接続を意識した「新体力テスト」の活用を行うとともに、鍛錬遠足や自然体験学習などの小中合同体育行事に取り組みます。また、運動部活動の充実を図ります。
- 学校における食育を推進するために、指導計画の作成と指導体制の整備を行い、小中の接続を意識した給食指導や弁当の日の設定などを推進します。

〔主な施策と取組〕

- ・おっしょい！元気ッズ・パワーアッププラン事業
（児童生徒の体力向上推進計画）
- ・食に関する指導の推進

キャリア教育の充実

- 望ましい勤労観・職業観を身につけ、社会人・職業人として自立する基礎を育成するために、地域の施設や人材を活用した職場訪問学習、職場体験学習を実施します。
- 将来への目標を持ち、進路を切り拓く節目をとらえたキャリア教育を推進するために、小学校4年生における1／2成人式および卒業を1年後に控えた中学校2年生での立志式を実施します。
- 中学校1年生が母校の小学校教職員に中学校生活を紹介したり、母校の小学校で活動したりする取組を推進します。

〔主な施策と取組〕

- ・中学校への小学校教職員の招待及び中学生の小学校での活動の推進
- ・福岡スタンダード

地域連携から始まる連携教育

学校と家庭・地域の連携を深める活動の推進

- 総合的な学習の時間などでの特色ある教育の推進、小学校外国語活動でのゲストティーチャーや学校図書館ボランティアの招聘、職場体験学習への協力、PTA活動の活性化、スクールガード（学校安全ボランティア）体制の確立など、保護者や地域住民が学校教育に参加することを通して、地域の教育力を小中の学校教育に反映させていきます。

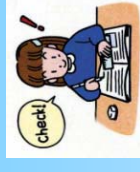
〔主な施策と取組〕

- ・学校支援地域連携事業
- ・子ども読書活動の推進

「改革」と「共育創造」

福岡スタンダードの手引き

Fukuoka Standard



「福岡スタンダード」とは

福岡市のすべての子どもたちに身につけさせ、定着を図りたい実践的態度を「あいさつ・掃除」「自学」「立志」というキーワードで表現し、その実現に向けて教育に取り組むことです。

教員や保護者、地域の方々が「福岡スタンダード」の重要性を認識し、子どもと共に実践することで、その教育効果は一層高まります。

「手引き」の活用について

「福岡スタンダード」に取り組んでいただく際には、児童生徒の実態や、これまでの指導の積み重ねなどに応じて各学校で創意工夫をすることが必要です。

各学校で具体的な計画を立てる際、全体像をつかんだり、イメージをもったりしていただくために、この手引きを活用してください。

なお、各発達段階における「めざす姿」は、あくまでも例示です。児童生徒の様子、小中連携の視点などを踏まえ、各学校の実態に応じた取組を推進してください。

幼稚園 保育所	小1～小4 特別支援学校 小学部	小5～中1 特別支援学校 中学部	中2～中3 特別支援学校 中学部	高校 高等部
------------	---------------------	---------------------	---------------------	-----------

立 志

自 学

あいさつ・掃除

早寝・早起き・朝ごはん

「あいさつ」

… 開かれた心や良好な人間関係を築き、他者とコミュニケーションを図る第一歩

期待される効果

○ 明るい笑顔、開かれた心 ○ 人間関係形成力 ○ コミュニケーション能力

大事にしたいこと

- 「礼儀」… 他者を気遣う気持ち
- 「感謝」… 「ありがとう」という気持ち
- 特別な支援が必要な児童生徒には、個に応じた支援を行う

教師の心構え

- ◇ 教師が誰に対しても率先してあいさつしているか
- ◇ 教師自らが適切な言葉遣いをしているか
- ◇ 児童生徒に敬語の意義を指導しているか

前期

小1～小4・小学部

めざす姿

- 笑顔で
- 元気な声で



おはようございます！
こんにちは！
ありがとうございます！
さようなら！

幼稚園から
保育所から

接続期

小5～中1・小学部・中学部

めざす姿

- 場と状況に応じて
- 自分から進んで



失礼します。
失礼しました。
よろしくお願いします。

後期

中2～中3・中学部

めざす姿

- 相手を意識して
- 気持ちを込めて



お世話になりました。
先日はありがとうございました。

「共育」の視点から…

- ◇ 家庭：生活のリズムを整える
(起床就寝時のあいさつの励行)
- ◇ 地域：地域の子どもに積極的にあいさつ
や声かけをする

実践例

- 校門前の「あいさつ運動」
- あいさつ週間・あいさつ月間
- 「オアシス」運動
- 「合い言葉」の募集
- 「あったか言葉」と「ちくちく言葉」

あいさつは
いつでも
どこでも
だれとでも

あいさつの「合い言葉」(例)

規範意識や自尊感情の高まり

他者とのつながり、社会的関係への気づき、自分や他の人を大切にする心の高揚

あいさつ・掃除、自学、立志

「掃除」 … 自分の責任や義務を果たす心、他者のために役に立つとするとする心を磨くこと

期待される効果 ○ 他者の役に立つ喜び ○ 責任や義務を果たす心 ○ 協調性や自律心

大事にしたいこと … 「心」を磨く

- 学級・学校への所属感
- 奉仕の精神
- 責任感
- 規律を重んじる態度
- 働くことの意義
- 特別な支援が必要な児童生徒には、個に応じた支援を行う

教師の心構え

- ◇ 教師が率先して掃除に取り組んでいるか
- ◇ 勤労の尊さを正しく児童生徒に伝える努力をしているか
- ◇ 教師の机や職員室は美しく整頓されているか

接続期

小5～中1・小学部・中学部

めざす姿

- みんなと協力して
- 自分から進んで

下級生のお手本になるようにがんばろう！
進んで掃除をがんばると
すがすがしい気持ちになる！

前期

小1～小4・小学部

めざす姿

- 時間を守って
- おしゃべりをしないで

きれいな教室で
気持ちがいいな。
がんばったことを
ほめられてうれしいな。

幼稚園から
保育所から

めざす姿

- 役割分担がなくても
- いつでも気づいた時に

自分たちの学校・校区は
自分たちできれいにしよう！
学校や地域の一員として
貢献しよう！

「共育」の視点から…

- ◇ 家庭：協力して家事をし、お互いの役割やよさを意識させる。
- ◇ 地域：清掃ボランティアなど、学校に積極的に協力する。

実践例

- 朝の奉仕活動（正門付近の清掃）
- 大掃除の実施
- 縦割り清掃活動
- 地域と連携した校区清掃活動
- 掃除の合い言葉の募集
- トイレ掃除に学ぶ活動

ささんじて
しずかに
すみずみまで
せいけつに
そうじしよう

掃除の「合い言葉」（例）

無言清掃

掃除は
心を磨く

取りかかりが大事

規範意識や自尊感情の高まり

他者とのつながり、社会的関係への気づき、自分や他の人を大切にすることの心の高揚

「自学」 … 自ら意欲的に学び、修めること

期待される効果 ○ 家庭学習の習慣 ○ 根気、集中力、忍耐力 ○ 読書の定着

大事にしたいこと … 「意欲」

- わかる授業づくり ○ 個に応じた指導の充実
- 能力や個性を伸ばす学習の充実
- 共通実践による学習規律の徹底
- 体験的、問題解決的な学習の充実
- 小中連携による学習内容・学習規律の共通理解

教師の心構え

- ◇ 教師が自学の精神で研鑽に励んでいるか
- ◇ 学級文庫や掲示物など、児童生徒の自学を促す学習環境を整えているか

前期

小1～小4・小学部

めざす姿

- いろいろなことに興味をもつ
- 自分から進んで取り組む



幼稚園から
保育所から

接続期

小5～中1・小学部・中学部

めざす姿

- 学んだことを学習に生かす
- 最後まで粘り強く取り組む



「共育」の視点から…

- ◇ 家庭：自学を支える学習環境をつくる
- ◇ 地域：学校公開週間等に積極的に参加する
- ◇ 企業等：学校教育に生かせる情報を発信する

家庭との連携 ～協力をお願いしておきたいこと～ (例)

- 基本的な生活習慣づくり（早寝・早起き・朝ごはん）
- 自分で学習の準備を確実にさせること
- 家庭学習の時間を決めて取り組ませること
- 学校配布の「家庭学習の手引き」の活用
- ノーメディアデーの取組
- 学校の話をする機会の確保
- ニュースをもとに社会の動きについて一緒に話し合う機会をもつこと 等

後期

中2～中3・中学部

めざす姿

- 自分で課題を設定し、取り組む
- 計画的に学習に取り組む



「立志」 … 将来の目標を定めてそれを成し遂げようとすること

期待される効果 ○ 家族への感謝 ○ 自立心、夢や目標づくり ○ 社会への貢献

大事にしたいこと … 「日々の授業の積み重ね」と「節目」

- 特別活動…学級活動(3)学業と進路 ○ 道徳
- 地域等と連携したキャリア教育の推進
- ・ 社会人講話・職場訪問・職場体験・高校一日体験
- 読書(伝記等)による「人の生き方」との出会い
- 特別支援学校におけるキャリア教育

教師の心構え

- ◇ 教師が人生の先輩として自立の大切さを教えているか
- ◇ 立志につながる学習活動を意図的・計画的に仕組んでいるか
- ◇ 教師が志をもって仕事をしているか

前期

小1～小4・小学部

めざす姿

- 身の周りの人に感謝する
- 友だちと協力して活動する



幼稚園から
保育所から

後期

中2～中3・中学部

めざす姿

- 社会の一員としての自覚をもつ
- 将来の夢、生き方を意識できる

接続期

小5～中1・小学部・中学部



中2 立志式

めざす姿

- 集団の一員として役割を果たす
- 夢や希望をふくらませる

教師の心構え

- ◇ これまでの経験を生かして、将来の自分の夢、生き方を描き、表明しよう！
- 職場体験等の経験をもとに、将来の自分の夢や生き方をまとめ、表明する。
- 中学校学習指導要領特別活動編「儀式的行事」に例示されている。

小4 1/2 成人式

今まで生きてきた10年間を振り返り、周りの人に感謝しよう！
そして自分の将来を考えよう！

- お世話になった方への感謝の気持ちを表す。
- 自分史をまとめ、発表する。
- 自分の夢を作文にまとめ、学級や学年集会で発表する。

「共育」の視点から…

- ◇ 家庭：働くことの意義や自立の大切さを話す機会を設ける。
- ◇ 地域：地域の特色を生かした体験的な活動を通して、子どもたちの豊かな心を育てる。
- ◇ 企業：社会人講師の派遣、インターンシップの受入を行う。

規範意識や自尊感情の高まり

他者とのつながり、社会的関係への気づき、自分や他の人を大切にすることの心の高揚